

1 悲喜劇:やがて悲しき祭りかな

①祭りの太鼓はドンドコドドン。祭りだ、祭りだ、ワッショイ、ワッショイ。

総裁選を盛り上げろ！ コロナを忘れて、盛りあげろ！

与党もメディアも、それ行けワッショイ。

②第五波なんて今は昔の物語。人出が増えても、ワクチン接種で乗り切れる。

コロナ対策大失敗？ そんな話はすんだこと。すんだことはノーサイド。いまさら検証してして何になる。喉元過ぎれば熱さは忘れる、ホイサッサ。

③ハトを装いながら、派閥の声ですぐ後退。モリ・カケ・サクラ隠して逃げまくれ。文書破棄にも口ぬぐえ。派閥ボスへの対応は、見ざる言わざる聞かざるの三猿政治。トップがこれでは超淋しい。唇寒し秋の風。

④C級ドラマは出だしで分かる。期待したのが大間違い。

ハトかタカか？ どちらだ、どちらだ？ いやいや実はヌエだろう。

信念曲げてヨイサッサ。成り行きしだいでどちらもありだ、ズンドコ ズンドコ。

⑤大手メディアもホイサッサ。祭りだ祭りだ、それ行けドンドン。

提灯 記事をぶち上げろ。ゴミネタありで垂れ流せ。売り上げ増やせ。視聴率稼げ。ドスコイドスコイ。

与党ネタでは稼げるが、野党ネタでは稼げない。ホーイホイサッサ。

⑥岸田総裁オメデトウ。党幹部の選出は、期待外れのホイサッサ。

スキャンダルには頬かぶり。訳あり議員の品揃え。

一步前進、二歩後退。バックオーライ、バックオーライ。

何だこりや、何だこりや、アイタタ アイタタ、ホイサッサ。

⑦新首相のお手並み拝見ホイサッサ。派閥復活オメデトウ。新大臣はごった煮並べた祭りの屋台。派閥のボスは万々歳。端から見たらトホホホホ。どこまで続くぬかるみぞ！がっくりがっかりホイサッサ。

森友封じて秋の陣。めでたく首相になったけど、逃した魚は超大きい。来年の参院選まで続

くドタバタ劇の幕開けか？ 短命政権の兆しあり。

⑧総裁選から衆院選、選挙運動東奔西走。コロナ対策開店休業2カ月間。担当大臣もみなすげ替えた。もっとやり方あるだろに。知恵もなければ肚もない。
これが有事対応か、ナンダコリヤ ナンダコリヤ。

⑨総裁選も衆院選も、人間側の事情だろ。コロナを甘く見くびるな。コロナはそこにかしこに潜んでる。第六波対策まったくなし。

「最悪に備えるコロナ対策」だと。言葉遊びの空手形。何を信じてよいのやら。
これじやあコロナと戦えない、オヨヨ オヨヨ オヨヨヨヨ！

⑩時代はとっくに先を行く。自民党のガラガラポンは期待薄。
堪忍袋の緒が切れた。止めてくれるなオッカサン。背中の桜吹雪が泣いている。
祈願！ミニ・ボス一掃、政界大掃除。
落選運動盛り上がり。老害議員を吹っ飛ばせ。腐敗議員を駆逐しろ。
女性を増やせ、若者増えよ。ガッテン ガッテン。ソレヤットコドッコイ ホイサッサ。

2 第六波にどう備えるか？

2.1 感染者が急減した原因は何か？

①東京都の感染者数を見ると、7月1日の673人から8月13日の5773人、1カ月半で8倍に増えた。その後は減少に転じ、10月21日には36人に激減した。2ヶ月ちょっとの間に、160分の1に減った。

久しぶりの明るいニュース。とりあえず一息つけた。

②人出は減らないのに、なぜ感染者数が激減したのか。
ワクチン接種が進んだとか、長期的に見れば人流が抑制されたとか、季節的な要因だとか、人々の行動変容が進んだとか、集団免疫が出来たとか、専門家はいろいろ説明する。

③しかし、どれも今回の激減を説明できない。専門家にも、本当のところは分からぬ。
今回の激減は人為的な対策だけでは説明できない。人為的な対策のほかに、別の原因が重複的に作用した可能性は高い。

④ 今まででは、わたしも含め多くの人が漠然と「人流が多くなれば感染は急増する、少なくなれば減少する」と考えていた。「人流の増減」と「感染者の増減」の間に因果関係あると考えていた。今まででは、現象的に見れば確かにそうだった。

⑤ A(=人流の増加)と B(=感染者の増加)が近接して起こると、人は A-B 間に原因-結果の因果関係を認めがちである。しかし、今回の例を考慮すると、このようなわれわれの「因果関係の推認」には欠陥があるらしい。

人流の増減と感染者の増減が常に運動していると見るのは、早計のようである。

2.2 ウィルスの自壊説とは？

① 以前も指摘したが、コロナの流行になぜ波があるのかは分かっていない。

本来なら、感染の勢いからすると社会を破壊し尽くすまで拡大しそうなものだが、感染者数は必ず一旦低下する。そして再びまた波が来る。しかも、波が来るたびに大きくなる傾向がある。1年10ヵ月たっても、コロナは、人間にとってまだまだ未知である。

② だから、今回の急減の原因についても、分からぬのはある意味当然ともいえる。

1つの説明としては、最近脚光を浴びている「エラーカタストロフ」仮説がある。

わたしには、この仮説を理解する能力も知識もない。テレビでの児玉達彦東大名誉教授の話をあえて要約すると、今回の感染者急減は、以下のようにウィルスの自壊作用によるものらしい。

コロナウィルスが複製される時にエラー（ウィルスのコピーミス）が多数発生し、
ウィルスが生存できなくなる。

2.3 人為的要因と非人為的要因

① しかし、さまざまな疑問がわく。

今回の急減は、自粛率の高さなどの人為的な努力の結果なのか。それともそれ以外の非人為的な要因（コロナ自体の特性、季節要因など）が大きいのか。仮に非人為的要因が大きいとすれば、自粛率の高さなどの人為的努力と非人為的要因との関係は如何？

② 現時点での情報をまとめると、以下のように要約できる。

(1) 今回の感染の急減の主因は、おそらくコロナウィルス自体の特性に基づく。

(2) 自粛率の高さなどの人為的な努力が、急減に寄与しただろうが、その程度は

不明である。

(3) 一般に、非人為的要因と人為的要因がどのように感染に関与しているかは不明である。ただし、人為的な要因は、感染拡大を加速/減速する大きな要因となる。

2.4 今後にどう備えるか？

①人流の抑制や個人の感染対策は、感染の増減に大きく影響するが、今回の急減の決定的な要因ではないらしい。この点を見誤り、今回の感染者急減が人為的努力によるものと即断しては、第六波の対策は根本から誤ることになる。

②感染者数が激減し、緊急事態宣言も解除され、各種の制限も緩和されるに従い、各方面で気の緩みが目立つ。

感染者数の多寡がわれわれの自粛率に大きく影響するというから（2021年9月28日日本経済新聞）、気のゆるみはより顕著になるのではないか。

喉もと過ぎれば熱さを忘れるとばかり、緊張を解くか、または、ここでさらに用心して備えるか。それが第六波の行方に大きく影響する。

③政府の最近の動きは、心もとない。やれ実証実験だ、Go to Travelの再開だ、出口戦略だ、ウイズコロナの時代が来るなど、相変わらず言葉が一人歩きしている。

実証実験の結果、感染者数がある程度に抑えられたとしても、今回の感染急減の原因が分からぬ以上、実証実験の結果をどう解釈するかは極めて難しい。

仮に、今もコロナウィルス自体の特性に基づく感染低減期が続いているとすれば、実証実験をしても感染者数は低く出るからである。

④おそらく、政府はそんなことにお構いなしに、「感染者数は低く抑えられた」とする誘惑に勝てない。そして経済再開に前のめりとなる。

⑤政府には前科がある。2020年9月から11月の3か月は、理由は分からぬが、目立った感染者数の増加がなかった（本メモ（6）3②④参照）。

この期間は、感染の波の間の望外の「恵みの時間」だった。この幸運の時間を、政府は何の

実効策を打たず、湯水のように無駄に使ってしまった。

未知が与えてくれた恵みの時間を、第六波対策のために使うか否か。そこに岸田政権の命運もかかっている。